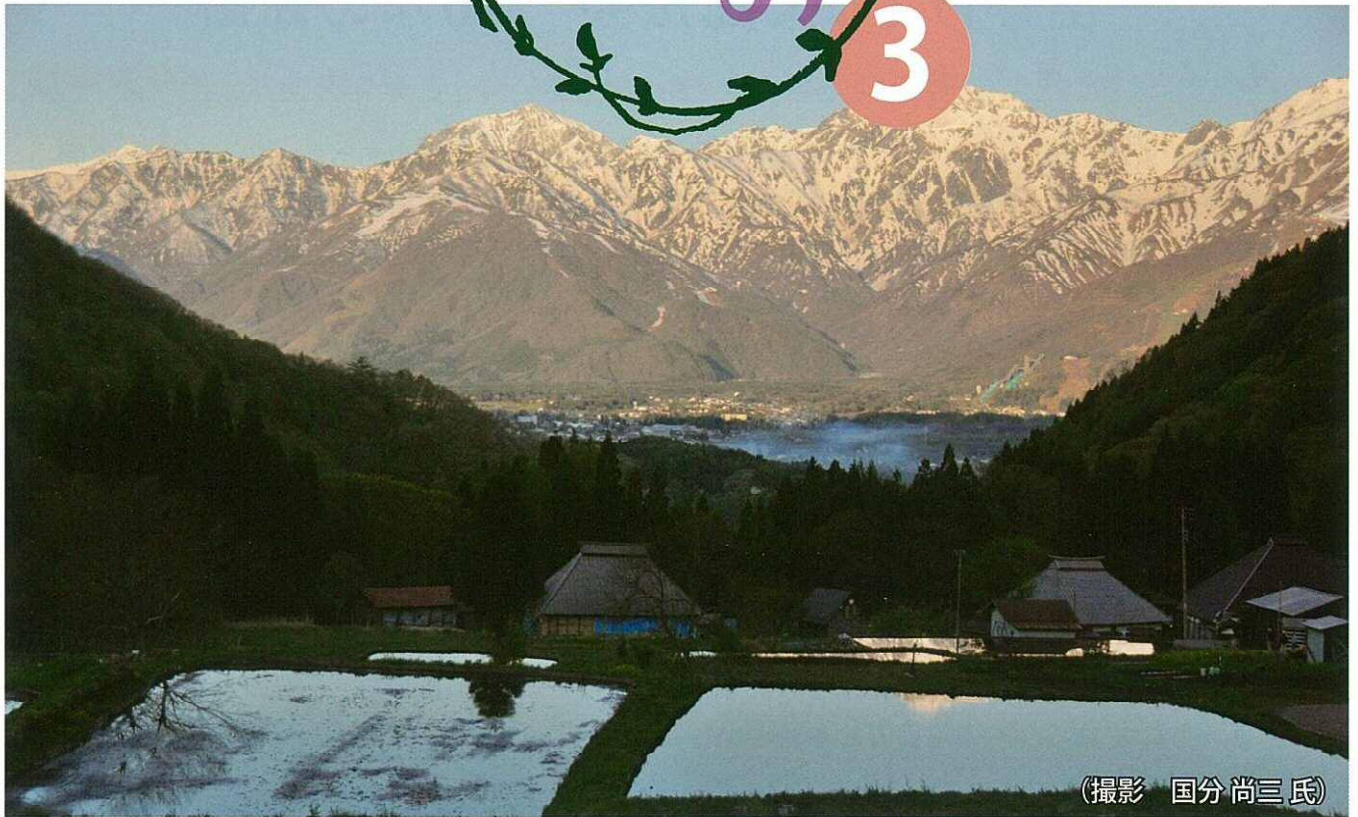


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 国分尚三氏)

世間を騒がせている全聾作曲家。別人が作曲していたう
えに、全聾も嘘であるという疑惑。十八年間にわたり多
くの人を欺いてきた。その罪は重大である。関係者の憤りは
心中を察するに余りある。

感動した分だけ怒りは大きく、正に人間不信である。天
声人語ではこの事件を受け、「美談は泣きながら疑うこと
を誓う」という谷川俊太郎氏の詩の一節を紹介し
ていた。なんとも悲しく響く言葉だ。恐らくヒッ
トしてきた曲も表舞台から姿を消すだろう。

果たして、「それでもやっぱりいい曲だ、感動す
る」という人はどれ程いるのだろうか。人を信用
できないと同時に、信用した自分自身も当てにな
らないのではないかと感じる。

「みなもってそらごとたわごとまことあること
なき」という『歎異抄』の言葉が思い起こされる。
人に向けた言葉に止まらず、自分の身の事実とし
て言われている。騙した人を責めることに始終し、
騙される身を抱えていることはなかなか問題に
出来ない。

外にばかり眼を向ける私達に、自身を問題にする眼を施
して下さるのがお念仏と教えられる。だからこそ親鸞聖人
は「ただ念仏のみぞまことにておわします」と言われる。そ
れは、身の事実への「悲しみ」と、その事実を照らし出して
くださった「喜び」が満ちた言葉ではないだろうか。

だまされた

6月14日(土) 「30周年」にご参加ください!

— 出かけていく聞法会 30年の軌跡 —

昭和59年2月26日、降りしきる雪の中、かねてからの念願であった「出かけていく聞法会」が、大田区・池上にある徳持会館で城南ブロック会として誕生しました。山上徳雄会長のもと、籠島金吾世話人から「共に念仏のみ教えにめぐりあうために、聞法会の普及と発展に微力を尽くす」との熱意が語られ、大いなる第一歩が踏み出されました。安倍義隆評議員会長をはじめ、約50名の出席を得て大盛況でありました。

城南ブロック会を皮切りに、同年7月には中央ブロック会、翌年3月に城東ブロック会、5月に城西ブロック会、6月に城北ブロック会が次々と産声を上げ、五ブロック会が足並みをそろえて聞法活動を開始しました。

平成6年5月28日、10年の歳月を経て、「どのような現実でも、生きる意義を見い出そう」をスローガンのもと、上野・精養軒において約300名の出席を得て「10周年記念講演」が開催されました。本山の門主様から力強いご挨拶をいただき、記念講演として河村とし子先生、真蓮寺住職・三島多聞師からそれぞれご法話をいただきました。あらためて親鸞聖人が明らかにされた、阿弥陀仏のご本願のいわれを聞き直し、11年目の出発とすることが誓われました。

月日は流れ、平成16年6月12日、浅草ビューホテルを会場に「20周年記念イベント」が開かれました。参加者は約300人を数え、盛大なイベントが挙行されました。記念講演として立命館大学・安齋育郎先生から「人はなぜだまされるのか」と題してお話いただきました。懇親会では真宗大谷派僧侶でシンガーソングライターの鈴木君代さんと天白真央さんが「いのちの花を咲かせよう」をテーマに熱唱されました。このイベントを通じて、いよいよ一人ひとりが聞法の先頭に立って、親鸞聖人のみ教えをいただいでいく生活が誓われました。

今年はいよいよ「出かけていく聞法会」も30周年の節目を迎えます。6月14日(土)、浅草ビューホテルを会場に「30周年記念大会」を催す運びとなりました。竹内乾一郎実行委員長を筆頭に25名の実行委員にもご協力いただき、聞法会の新たなる門出とするためにご尽力をいただくこととなりました。当日は元宗務総長・大谷義博師より法話をいただき、ふしだん節談説教、「合唱団エコー」や「弦楽四重奏」による演奏会も予定しております。

私どもに先立って念仏のみ教えを聴聞され、聞法会に情熱を注いでこられた先人のご苦勞に深く感謝するとともに、混乱する時代社会を生きる私たちに対して、南無阿弥陀仏こそが真の依りどころであるという呼びかけに応じていきたいと思っております。

この度の「記念大会」が善きご縁となり、新たなる出遇いの場所となりますことを、心より念願いたしております。大勢のご参加、お待ちしております。

しゅんきひがんえ
春季彼岸会のご案内



お彼岸と聞くと、季節を表す言葉や、ご先祖のお墓参りという意味合いで使われる場合が多いかと思えます。

彼岸とは、梵語ではパーラミッタ(波羅蜜多)といい、中国では到彼岸と訳されました。日本語にすると「彼岸に到る」という意味になります。彼岸(彼の岸)とは阿弥陀仏の浄土が譬えられています。それに対して此岸(此の岸)は娑婆ともいわれ、迷いの世界、すなわち煩惱を身に抱えて生きている、人間の世界が表されています。つまり到彼岸とは人間の迷いの世界から、阿弥陀仏の覚りの世界に到るという意味なのです。

彼岸への道といいますが、自らの努力や精神力で彼岸に到るのではなく、自分の物差しを間違いのないものとして善悪を判断したり、自分の力をあてにする計らいが迷いであると気づかされ、我が身を本当に支えているいのちのはたらきに目を覚ましていく。それが彼岸に到るという言葉で表されています。

彼岸会とはご先祖への墓参をご縁とし、南無阿弥陀仏(いのちのはたらき)のいわれを聴聞させていただく仏教週間であります。

この度の本山差向布教は滋賀県より田中美知男布教使にお越しいたします。皆様にはぜひともご参詣をいただき、共に親鸞聖人のみ教えを聴聞させていただきたいと思っております。

記

平成26年3月22日(土)

午前10時

しょうとくたいしほうさんえ
聖徳太子奉讃会
法話(1席)

午前11時30分 合唱団「エコー」演奏会



正午から

午後1時30分

お齋
しゅんきえいたいきょうほうよう
春季永代経法要
法話(2席)

ほんざんざしむけ
本山差向布教使

ふつじょうじ
田中美知男師(滋賀県・草津市・仏乗寺住職)

※準備の都合上、お齋をご希望の方は3月15日までに葉書でお申し込みください。

混声合唱団「エコー」 演奏プログラム

平成26年3月22日(土)

11時半～12時 本堂にて

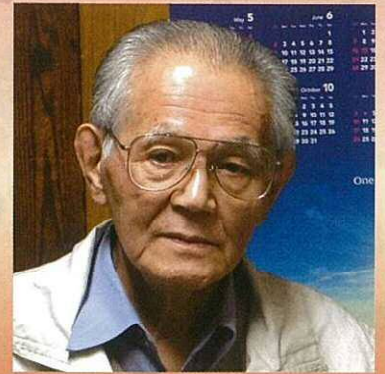
指揮 横山 慎吾
ピアノ 金澤 麻里子

しんしゅうしゅうか そうしゅんふ おんどのくさん
真宗宗歌・早春賦・恩徳讃 など

「エコー」は門徒さんを中心に練習を重ねてきました。最近では初参加の方が来られ、一緒に春の歌や仏教歌を楽しく歌っております。ぜひお越しください。

やっぱり誠意ですよ

台東区在住 玉廣 保 さん



今回は台東区にてプラスチックフィルム of 加工販売をされている玉廣保さんにお話を伺いました。

◆現在の仕事に至るまで

もともとは親父が製紙業をしていて。俺が高校を卒業して、親父がやってるのを見過すわけにもいなくて、しょうがないなって思ってた。手伝ってたね。その頃、素材はセロハンからプラスチックフィルムに移り変わった時代で、うちも製紙業から移行しました。親父は「ずっと紙を作ってきたから新しいのは知らない」と言っていて大変だったけどね。

◆毎日が勉強

主に包装紙を作るんだけど、これは本当に多種多様で、例えば煎餅の包装なら食品衛生法、おもちゃだったら玩具安全基準（ST基準）をある程度知っていないと相手と話が出来ないわいよ。質問されるから。

玩具だったら、例えば紐一つにしても0才から3才向けなら紐を食べちゃうから切れちゃいけないし、3才から5才向けのは紐で首を絞めないように切れ

ないといけないの。あくまで基準だけど、包装紙だったら袋を被っちゃう人がいるわけよ。すると窒息しちゃう。だからどれだけの大きさの穴が開いていないといかないって基準があって、そういうのを知らないで注文を受けちゃうと、「お前そんなのも知らないのか」と信用に関わる。逆にお客さんに「このままだと基準に引っかけますよ」って注意したり。基準はちよくちよく変わるから勉強し直して……。そういう関係で成り立っているよね。

◆仕事を通じて思うこと

やっぱり誠意ですよ。お客さんにとって、もっと良い方法はないかっていう誠意・熱心さが仕事には大切です。初めてのお客さんには「なんでうちの物がいいのか」となるわけで、その時に「サンプルを使ってみてくださいよ」って渡したり、他にもいろいろ工夫してさ。仕事一つをするにしても、人と人との関わりとか、そういう粘りを大切にしていきたいですね。

(聞き手 高橋 淳)



えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

- | | | | |
|------|----------|--------|---------|
| 兵庫県 | 恵光寺 様 | 中野区 | 木田 静代 様 |
| 大阪府 | 最勝寺 様 | 葛飾区 | 札木 良明 様 |
| 新潟県 | 梵行寺 様 | 世田谷区 | 阿部 雅栄 様 |
| 文京区 | 官林 以智子 様 | 千葉県山武郡 | 近藤 和子 様 |
| 北区 | 高橋 昭子 様 | 江東区 | 坂口 実祥 様 |
| 板橋区 | 久保田 宏子 様 | さいたま市 | 原島 柊一 様 |
| 江戸川区 | 山本 義憲 様 | 浦安市 | 窪澤 仁 様 |

平生は見向きもしない泥田でも、蓮華の花が咲くと、人があつまり、無垢な美しさをたたえます。蓮華は、淤泥華といわれるように、泥沼にしか咲きません。景色のいい、高原には生じないのです。蓮華が仏教のシンボルフラワーとされるのは、「凡夫煩惱の泥の中において、菩薩のために開導せられて、よく仏の正覚の華を生ずるに喩う（『教行信証』）」からです。

天親菩薩は、阿弥陀仏に一心帰命すれば、自分の思いこみに閉じこもる盲点を破つてくださる、よき師、よき友を賜るだけでなく、「蓮華蔵世界に至ることを得」といわれます。この蓮華蔵世界は、阿弥陀仏の国土・浄土のことです。阿弥陀仏の浄土は、ひとを傷つけ踏みつけにするわれらの煩惱にも汚されず、ともに生きることができる安らかな徳を蔵している世界なので、蓮華蔵世界といわれます。

それで、阿弥陀仏の浄土に往生すると、「即ち真如法性の身を証せしむ」といわれます。「即」は、同時ということ。「真如」は「真実」、「法性」は「真実の本性」をいいます。「真

実」や「法性」は、いろやかたちを超えたさとりの世界ですから、わたしの思慮分別ではいい表わせませんが、真実に触れると、名利などの形にとらわれる必要のない場に、立たしめ



正信偈の話 ③1 松井憲一
得至蓮華蔵世界、即証真如法性身。遊煩惱林現神通、入生死園示応化。
（蓮華蔵世界に至ることを得れば、即ち真如法性の身を証す。
煩惱の林に遊んで神通を現じ、生死の園に入りて応化を示すといえり。）

くことは、一人でさとりすまし、個人の喜びに居座ることではありません。それで「煩惱の林に遊んで神通を現じ、生死の園に入りて応化を示すといえり」といわれます。

「煩惱」は、身心を乱し悩ませ、正しい判断をさまたげる心のはたらきで、貪（むさぼり）・瞋（いらり）・痴（愚痴・物事の正しい道理を知らないこと）の三つが、主な煩惱といわれます。この煩惱は、いつ、何が飛び出すかわからないので、「林」ジャンルに譬えられます。「神通」は、人びとを救うす

られるといわれます。浄土は、『阿弥陀経』に「俱会二処」といわれるように、互いに認め合い共生することのできる世界です。だから、浄土にてさとの身をいた

は偶然と決めつけて、若いのはよい、老いて死ぬのはわるいとさまよい、迷いつづけていく状態です。その迷いの広さを「園」と譬えるのでしよう。「応化」は、他の人びとが救われることが、自分の救いであると、状況に応じて素早く動くことです。

こうして、浄土に往生した人は、浄土にとどまるのではなく、煩惱の密林に自在に出入りし、ほとりのない迷いの園に遊ぶがごとく、無心に苦悩する人びととともに、一心帰命の生活ができるようになるということです。親鸞聖人は、「謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには往相、一つには還相なり（『教行信証』）」と示して、浄土へ往くのも、浄土から還るのも、ともに如来の廻向、如来のはたらきによるといわれます。往つて還れるのは、今ここに安んじておれる世界をいただくことでもありましよう。

聞法される師友の姿が、自分の聞法の鏡になる。親しき人との死別が、本願のお念仏に遇える御縁になる。それらは、浄土から還られた人の、お育てであるともいえますましよう。

山門の言葉

しゃっかく 尺蠖の循環するがごとく



これは『浄土論註』という書物に出してくる言葉である。

尺蠖（尺取り虫）をコップの縁にのせると、ぐるぐると同じ所をめぐり歩き、そこから下りようとしないうその姿から、生死の迷いの中を流転して生きている私たちのありさまを喩えた表現である。

昨年、西徳寺の報恩講に布教師として来ていただいた、福井憲雄師も法話の中で、この言葉を取り上げられた。（えこお四三二号参照）

私たちは、いつも無意識に何かを求めている。満たされれば、それで終わるのではなく、また新たな欲望が湧いて出てくる。決して現状に満足することができず、終わることのない欲求が、ひたすら循環し続けているのである。

尺取り虫が同じ所をめぐっていることは、私たちが外から見ているからわかることであって、尺取り虫自身は自分が堂々めぐりしていることなど、夢にも思っていないはずである。そんなこと気にすることもなく、ひたすら縁を這い続けている。現在、私たちは非常に便利な世

の中を生きている。欲しい情報はクリックひとつで入手でき、欲しい物も家にいながら買うことができる。これだけ便利な世の中であるにも関わらず、私たちの欲望は決して満足することを知らない。

しかしそういう世界に生まれてきた私たちにとって、これは至極当たり前のことであって、生活していく上で当然のいとなみである。

尺取り虫が自分のことが見えないうちに、私たち自身も自分のことは、自分が一番わかっているようである。実は一番わかっていないのである。

私たちのすがたは、人間を超えた眼によってしか見えないのである。それこそ阿弥陀仏からさしむけられている智慧の眼なのである。

生死の迷いを生きてきた人類の歴史と共に見いだされてきた。その智慧のはたらきに触れたとき、私たちは初めて、迷いの世界を生きていることを知らされるのである。



（蓮井 邦宗 記）

日誌

1月18日(土)
1月19日(日)
1月20日(月)
1月22日(水)
1月23日(木)
1月24日(金)
1月25日(土)
1月27日(月)・28日(火)

定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習
評議員会新年会(参加者25名)
東京教区新年会(新横浜)
総代会
『唯信鈔』に聞く(第2回)
講師 宗正元師
企画諮問委員会
同行会新年会(参加者12名)
宗祖忌

1月28日(火)
1月31日(金)
2月1日(土)
2月7日(金)
2月7日(金)・8日(土)
2月9日(日)
2月12日(水)
2月15日(土)

仏教青年会『歎異抄』に聞く
講師 宗正元師
七部仏教会新年会
混声合唱団「エコー」練習
出かけていく聞法会30周年実行委員会
中興忌
城東ブロック会聞法会(中止)
婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
定例聞法会(中止)
混声合唱団「エコー」練習・新年会
(参加者23名)

評議員会新年会

去る1月19日(日)、午後3時より西徳寺本堂におきまして、評議員会新年会が開催されました。来賓として総代会から3名、会員22名の参加のもと盛大に執り行われました。竹内乾一郎会長からは、6月14日に予定されている「出かけていく聞法会30周年記念大会」に向けての抱負が語られ、会員の皆様への協力が求められました。



また来賓からは青柳庄一責任役員のご挨拶があり、聞法会のさらなる繁栄を願い、一つの節目として記念大会を盛り上げたいと述べられました。

その後、会場を上野・伊豆栄「不忍亭」に移して懇親会が開かれ、とても賑やかに親睦を深めることができました。

(木村 専正 記)



昭和58年12月1日、滋賀県草津市にある常教寺の次男として生まれ、現在30歳です。平成21年の3月から西徳寺で勤めております。

大学は大谷大学で真宗学を学びました。小学生から始めた野球が好きで、大学時代は弱いチームでしたが、仲間を集めた草野球チームの監督もしていました。西徳寺へは縁あって入寺し、今月でちょうど5年が経ちます。また昨年同郷の女性と結婚をすることが出来ました。

西徳寺に入寺してからの5年間で、色々な方と関わりを持たせていただいています。小さな集落にある自坊では近所付き合いのように門徒さんと接していましたが、西徳寺は門徒さんの数も違い、同じように接することはなかなか出来ません。それもあってか門徒さんとの間に距離があるように感じます。最初は戸惑いましたが、最近はお葬式以外にも、お盆やお彼岸にご自宅にお参りに行く際に、お勤めしてからお話し、門徒の方との距離を少しでも埋めるようにしています。門徒さんとの距離をできるだけ近くし、お寺を身近に感じてもらい、門徒の方々と共にそれぞれの立場でお念仏の教えを聞いていけたらと思っております。

またお念仏の教えといっても、生活を通さなければ自分とは別世界の話になると感じておりますので、担当をしている城東ブロックなど、聞法会ではテキストを通し、今の私を感じたこと、生活を通して気付かされたことを大切にしてお話をすることを心がけています。

今後は門徒さんからも感じていることを教えてもらい、また今は少ないですが、お葬式の後の中陰や月参りなど、ご自宅へのお参りに行かせてもらえるように、お声かけしていきたいと思っております。もっともとお互いの話が出る寺、僧侶になりたいです。

職員 自己 紹介

なかい まさひろ
仲井 真裕



掲示板

平成26年3月

- 1日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
4日(火) 午前11時 仏具磨き(時間が変更になりました)
8日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 大橋 伊知郎
9日(日) 午後2時半 城北ブロック会間法会(王子北とびあ)
11日(火) 午後6時半 仏教青年会レクリエーション
「寄席の会」(上野・鈴木亭)
12日(水) 午後1時 婦人会間法会 「釈尊伝」に聞く
午後4時半 総代会
13日(木) 午後2時 東京教区研修会(新横浜グレイスホテル)
15日(土) 午後1時半 定例間法会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
18日(火)～24日(月) 春季彼岸会
22日(土) 午前10時 聖徳太子奉讃会・本山特派布教・
春季永代経法要
布教使 田中 美知男師
27日(木) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く(第4回)
講師 宗 正元師
29日(土) 午後5時45分 同行会修習式
法話 山崎 哲
30日(日) 午後2時 中央ブロック会間法会
(湯島天神・梅香殿)

同行会新年会

去る1月25日(土)西徳寺本堂にて22名参加のもと、恒例の同行会新年会が開かれました。勤行の後、安藤会長から真宗の修行は聞法であり、話す皆様にも益々研鑽をお願いしたいとのお挨拶を頂き、岸本住職からは法然の伝記や親鸞の言葉を今一度見直すと新たな親鸞像が見えてくるとのお挨拶を頂きました。

その後、梅檀の間に場を移した懇親会では、皆様から近況や抱負を伺いました。また30年以上続く同行会も今年新たに再出発したいという気運のもとお開きとなりました。

(山崎 哲 記)



本山佛光寺で長寿者を表彰!

本山佛光寺では、長寿者(90歳・100歳)の方に記念品を授与し、お祝いしております。数え90歳から申請できます。住民票、あるいは保険証の写し等年齢の証明できるものを提出してください。但し、場合によっては住職の証明でも申請は可能です。

ご希望の方は寺務所までお申し込みください。(電話 03-3875-3351)



編集後記

3月3日は雛祭りです。「桃の節句」ともいわれ、古くは厄を人形に移して祓った「流し雛」という風習もありました。それらが発展し、雛人形を飾って女の子の健やかな成長と幸せを願う現在の雛祭りとなりました。

ひし餅や雛あられに使われる3色は、それぞれ大地(白)・木々の芽吹き(青)・生命(桃)といわれ、自然の恵みを授かり健康に暮らしていくことが祈られています。雛祭りを通じて、私のいのちはたくさんの人々に願われ、大地に支えられているということを感じ取っていただけたらと思います。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com